

七 漢文を訓読しよう！

☆漢文の訓読のまま

1 次の原則に従って読もう。

- ① 上から下に読む。
- ② 送り仮名や句読点に注意して読む。

【例】

〈白文〉 …中国のもともとの文。漢字だけが並んでいます。

花 開 、 鳥 啼 。

↑この状態で読むのは難しいですね。だから……↓

〈訓読文〉 …白文に送り仮名と返り点（後で説明します）をつけて、読みやすくした文。

送り仮名…漢字の右下に“歴史的仮名遣い”で書く。

キ ク

花 開 、 鳥 啼 。

読む順番

1

2

3

4

↑これをさらに日本人が読みやすい形にすると……↓

〈書き下し文〉

花開^なき、鳥啼く。

↑これで日本の『古文』と同じ文になりました。

それを今のみんなが使う言葉にすると……↓

〈口語訳（≡現代語訳）〉

花は開き、鳥は鳴く。

↑はい、これで意味も完璧ですね。

2 “ 返り点 ” に従って語順を変えて読む。

日本語と中国語では文法が違うので、言葉を並べる順番が違います。

例えば、〈主語〉〈述語〉〈修飾語〉の順番が違います。どついつとどついつと……

	①主語	②修飾語	③述語	
〈日本語〉	私は	本を	読みます。	
	↑この順番ですよね。でも……			
	①主語	②述語	③修飾語	
〈中国語〉	我	読	書	
	↑“ 修飾語 ” と “ 述語 ” の順番が逆 (“ 私は読みます、本を。 ”) になって いますよね。これでは非常に読みづらい……。			
	どついつとどついつと、昔の日本の学者が考えたのがこれです！ ↓			

英語と同じですね。
I read a book.

我 読 書

↓

この記号を『返り点』と言います。

この記号を付けると、この記号前後の語の順番を入れ替えて読みます。

つまり、 ↓

我 書 読

という順番です。これなら日本語と同じ順番ですよね。

今からこの『返り点』の種類を学んでいきましょう。

中学校では三種類だけ学んでもらいます。これが分かれば、

知^ル之^ヲ者^ハ、不^シ如^シ好^ム之^ヲ者^ニ

↑この訓読文を書き下し文にできるようになります。お楽しみに！

3 返り点の種類を知ろう。

(1) し点…一字だけ上に返る場合につける。

2 し 1

(例) **訓読文**
誉ほめる之これヲ

書き下し文

→ **これを誉める**
○のように、日本語にしたときひらがなで書くものは、書き下し文でもひらがなで書こう。

有あり 備く 無し 患うれヒ

→ **備えあれば患いなし**

3 し 2 し 1

(例) 不し 合ハ 理ニ

→ 理に合はず

不し 能ハ 応コトナルコトナリ 也

→ いたるることあたわ
ざるなり

練習問題

次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 花ハ 欲ほ 然エント

↓

② 春 眠 不ず 覚エ 曉あけ

↓

(2) 一・二点…二字以上、上に返る場合につける。

3 = 1 2

(例) 思^フ 故 郷^ヲ → 故郷を思ふ

誉^{ホメテ} 其^{ソノ} 矛^{ホコヲ} 曰^{イハク} → その矛を誉めていわく

※し点と一・二点が組み合わさることもあります。

4 = 1 3 2

「し (いちれ) 点」を併記することが多いです。

(例) 闘^ヒ 鬪^グ 盾^{タテ} 与^{トヲ} 矛^{ホコ} → 盾と矛とをひねぐ

練習問題

次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 以^モ 子^シ 之^ノ 矛^ヲ →

② 不^ズ 亦^{また} 君^{くん} 子^し 乎^や →

③ 可^べ 以^テ 為^タ 師^ル →

(3) 上中下点…一・二点をはさんで、上に返る場合につける。

5 下 3 二 1 2 一 4 上

(例) 悪にくム 称しょうスル 人 之 悪あく 者ヲ
下 二 一 上



人の悪を称する者をにくむ

※し点と一・二点が組み合わさることもあります。

6 下 3 二 1 2 一 5 上し 4
 ↑
 これです。

勿なかしもつテ 以ナ 悪ノ 小ナルヲ 為ナスコト 之これヲ
下 二 一 上し



悪の小なるをもつてこれをなすことなかれ

練習問題 次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 有あり 朋とも 自より 遠 方 来タル
下 二 一 上 ↓

② 有あり 鬻ひき 盾ト 与ト 矛 者
下 二 一 上 ↓

③ 勿かし 以テ 善ノ 小ナルヲ 不ザルコト 為サ
下 二 一 上し ↓

3 返り点の種類を知ろう。

(1) ㄱ点…一字だけ上に返る場合につける。

2 1

(例) **訓読文**
誉^ほ之^{メルニ}ヲ

書き下し文

→ **これを誉める**
のようじ、日本語にしたときひらがなで書くものは、書き下し文でもひらがなで書こう。

有^リ備^へ無^シ患^{うれヒ}

→ **備えあれば患いなし**

3 2 1

(例) 不^レ合^ハ理^ニ

→ **理に合はず**

不^ザ能^ハ応^{コト}也^{なり}

→ **にたふることあたわ
ざるなり**

練習問題

次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 花^ハ欲^{ハス}然^ニ

↓

花は然えんと欲す

② 春眠不^ズ覚^エ曉^ト

↓

春眠曉を覚えず

(2) 一・二点…二字以上、上に返る場合につける。

3 = 1 2 _

(例) 思^フ 故 郷^ヲ → 故郷を思ふ

譽^{ホメテ} 其^{ソノ} 矛^ヲ 曰^{イハク} → その矛を譽めていわく

※し点と一・二点が組み合わさることもあります。

4 = 1 3 _ 2

「一ノ(いちの)点」と呼ぶことが多いです。

(例) 鬪^{ヒガケ} 盾^{タテ} 与^ヲ 矛^ヲ → 盾と矛とをひたぐ

練習問題 次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 以^{モッテ} 子^シ 之^ノ 矛^ヲ →

子の矛をもって

② 不^ズ 亦^{また} 君^{くん} 子^し 乎^や →

また君子ならずや

③ 可^{べし} 以^テ 為^た 師^ル →

もって師たるべし

(3) 上中下点…一・二点をはさんで、上に返る場合につける。

5 下 3 二 1 2 一 4 上

(例) 悪^{にくム} 称^{しもうスル} 人 之 悪^{あく} 者^ヲ
下 二 一 上



人の悪を称する者をにくむ

※し点と一・二点が組み合わさることもあります。

6 下 3 二 1 2 一 5 上し 4
 ↑
 これです。

勿^{なかしもつテ} 以^ナ 悪^ノ 小^{ナルヲ} 為^{ナスコト} 之^{コレヲ}
下 二 一 上し



悪の小なるをもつてこれをなすことなかれ

練習問題 次の訓読文を書き下し文にしてみよう。

① 有^{あり} 朋^{とも} 自^{より} 遠^{タル} 方^ト 来^{タル}
下 二 一 上 ↓

朋遠方より来たるあり

② 有^{あり} 讐^{ひそが} 盾^ト 与^ヲ 矛^シ 者^上
下 二 一 上 ↓

盾と矛とをひそぐ者あり

③ 勿^{かし} 以^テ 善^ノ 小^{ナルヲ} 不^{ザルコト} 為^サ
下 二 一 上し ↓

善の小なるをもつてなせざる
 ことなかれ

八 漢詩（中国の詩）の基礎知識を知ろう！

日本の定型詩に俳句（五・七・五）や短歌（五・七・五・七・七）があるように、漢詩にも文字数が決まっているものがあります。漢詩の種類と、その決まりを学びましょう。

☆ 一行に漢字五文字が使われている詩のことを**五言詩**と言います。

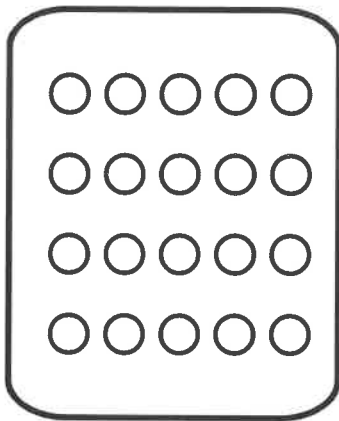
また、四行からできている詩を**絶句**と言います。

その二つを組み合わせた詩の形式を……

五言絶句

と言います。

←このような形です。 ↓



↑ 〇 1 つが漢字 1 文字です。

二年生の教科書で実際の五言絶句の作品を見てみると、

P146	春 眠 不 覚	↑ 題名	孟浩然	↑ 作者名
	夜 来 風 雨 声			
	花 落 知 多 少			

こんな感じですよ。

次に、八行からできている詩は**律詩**と言います。

と言うことは、一行が漢字五文字の八行詩のことは何と呼ぶのでしょうか？

正解は……

五言律詩

ですね。二年生の教科書 P152 を見てみましょう。

春望

杜甫

国 破 山 河 在
 城 春 草 木 深
 感 时 花 溅 泪
 恨 别 鸟 惊心
 烽火 莲 三 月
 家 书 抵 万 金
 白 头 搔 更 短
 浑 欲 不 胜 簪

↑ こうなります。

次のページでは、

「七言絶句」「七言律詩」という形式を見てみましょう。この名前から、文字数を予想できる人も多いでしょう。

七言絶句

の詩は、二年生の教科書^{P149}を見てください。

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鹤楼
烟花三月下扬州
孤帆远影碧空尽
唯见长江天际流

↑これがそうです。

一行に七文字。それが四行あります。

七言律詩

も見てみましょう。

香炉峰下、新たに山居を卜し、草堂初めて成り、
偶東壁に題す

白居易

日高睡足犹慵起
小阁重衾不怕寒
遗爱寺钟敲枕聴
香炉峰雪撥簾看
匡廬便是逃名地
司马仍为送老官
心泰身宁是归处
故乡何独在长安

↑こんな感じです。今はまだ、読めなくても

いいですし、意味も分からなくていいです。

「五言絶句」「五言律詩」

「七言絶句」「七言律詩」の形だけを

見分けられるようにしておきましょう。

練習問題

次の漢詩の形式を漢字四文字で書きましょう。

また、これを書き下し文にしてみましょう。

☆詩の
形式

--	--	--	--

P148 絶句 杜甫

江碧鸟逾白

山青花欲然

今春看又过

何日是归年

☆書き下し文

七言絶句

の詩は、二年生の教科書^{P149}を見てみましょう。

黄鹤楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鹤楼
烟花三月下扬州
孤帆远影碧空尽
唯见长江天际流

↑これがそうです。

一行に七文字。それが四行あります。

七言律詩

も見てみましょう。

香炉峰下、新たに山居を卜し、草堂初めて成り、
偶東壁に題す 白居易

日高睡足犹慵起
小阁重衾不怕寒
遗爱寺钟敲枕聴
香炉峰雪撥簾看
匡庐便是逃名地
司马仍为送老官
心泰身宁是归处
故乡何独在长安

↑こんな感じです。今はまだ、読めなくても

いいですし、意味も分からなくていいです。

「五言絶句」「五言律詩」

「七言絶句」「七言律詩」の形だけを

見分けられるようにしておきましょう。

練習問題

次の漢詩の形式を漢字四文字で書きましょう。

☆詩の

五言絶句

また、これを書き下し文にしてみましょう。

形式

P148

絶句

杜甫

江 碧 鳥 逾 白

山 青 花 欲 然

今 春 看 又 過

何 日 是 帰 年

☆書き下し文

江は碧にして鳥はいよいよ白く

山は青くして花は然えんとほつす

今春みすみすまた過ぐ

いずれの日かこれ帰年ならん

◎ 次に、漢詩の決まりを知りましょう。

ままり 1 **起承転結**

もう一度、この五言絶句を使います。

しゅんぎやう
春曉

もうこうねん
孟浩然

- 1 春 眠 不 覺 曉
- 2 処 処 聞 啼 鳥
- 3 夜 来 風 雨 声
- 4 花 落 知 多 少

右の漢詩を、1行目から口語訳してみます。

- 1 春の眠りはあまりにも気持ち良すぎて、朝が来たのも気づかないなあ。

「詩の始まり＝スタート＝歌い**起**しの役割」… 1行目を「**起句**」と言います。

- 2 あつちからもこつちからも鳥のさえずりが聞こえるよ。

「詩の始まり（起句）を**承**けて、世界を広げる役割」… 2行目を「**承句**」と言います。

- 3 そいえば昨夜は風と雨の音がひどかったなあ。

「起・承の世界をガラツと変える＝**転**換する役割」… 3行目を「**転句**」と言います。

- 4 庭の花はどれだけ散ってしまったのだろうか。

「最後に文章をまとめる＝**結**ぶ役割」… 4行目を「**結句**」と言います。

このように絶句はそれぞれの行に役割があります。そしてそれぞれを

「起句」「承句」「転句」「結句」と読んでいます。皆さんが小学校で習った

【起承転結】ですね。もう一編見ておきましょう。

こうかくろう とうりやう ゆ りはく
黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

故人西辞黄鶴楼 **起句** 幼なじみが西にある黄鶴楼に別れを告げて

烟花三月下揚州 **承句** 花がすみが美しい三月に揚州に向かう

孤帆遠影碧空尽 **転句** 一そうの帆船の遠い影は青空に消えていき

唯見長江天際流 **結句** (私は) ただただ長江が水平線に流れるのを
見ているしかできない

起承転結、四行の流れが分かりましたか？

きまり2 ^{おちいん} 押韻

またまた、この五言絶句に登場してもらいましょう。

春暁 孟浩然

起 春 眠 不 覺 曉
 承 処 処 聞 啼 鳥
 轉 夜 来 風 雨 声
 結 花 落 知 多 少

この2文字に注目

右の五言絶句の二行目（承句）と四行目（結句）の最後の文字を”音読み”してみると……
 「鳥」＝「チヨウ」、「少」＝「シヨウ」ですね。なんだか似ていますね。

もう一編、五言絶句を見てもらいます。

絶句 杜甫

起 江 碧 鳥 逾 白
 承 山 青 花 欲 然
 轉 今 春 看 又 過
 結 何 日 是 帰 年

似ていますね

これは偶然ではありません。これが漢詩のきまり二つ目 **【押韻】** です。

つまり、**偶数行最後の文字を似ている音にしなければならぬ**といつきまりです。

ちなみにこれが **〈七言詩〉** になると、**一行目（起句）の最後の文字も押韻でそろえなければなりません。**

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白

故 人 西 辞 黄 鶴 楼 〓ロウ
 煙 花 三 月 下 揚 州 〓シユウ
 孤 帆 遠 影 碧 空 尽
 唯 見 長 江 天 際 流 〓リユウ

押韻というきまりについて、理解できましたか？

二年生の教科書や、以前の漢詩のワークシートに載っている漢詩の偶数行最後の文字を音読みしてみてください。